

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西川副小学校

校長 古賀 一成

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。児童の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめましたので、概要についてお知らせいたします。学力向上のためには学校と家庭の連携が必要です。改めて、お子さんの学力について考える機会としていただけると幸いです。

■ 調査期日 令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年 小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- | |
|--|
| ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

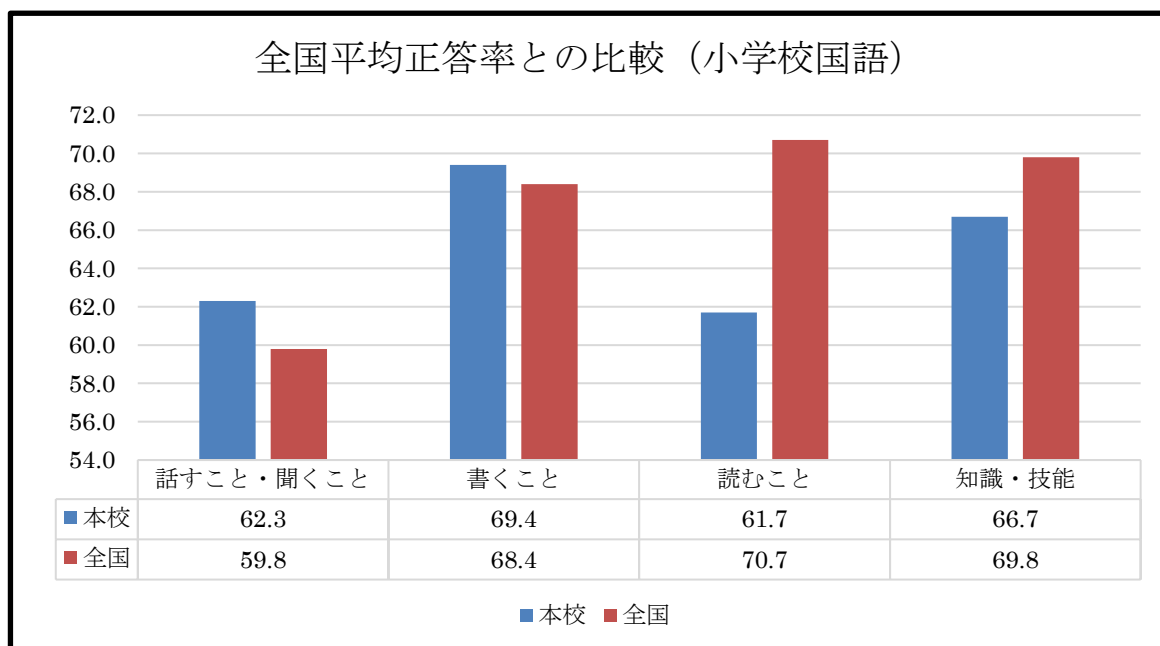
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

1 国 語

(1) 領域別全国正答率との比較



「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」領域は全国平均正答率を上回りました。問題の後半になるにつれて無解答率が高くなっています。

(2) 成果や課題

今回の調査では、「話すこと・聞くこと」領域が約3ポイント、「書くこと」領域が約1ポイント、全国平均正答率を上回りました。問題に課せられた条件に応じて文章を書く力をつけるよう授業改善を継続してきた成果が見られました。

課題は、昨年度と同様「読むこと」領域で、全国平均正答率を約9ポイント下回りました。文章を速く正しく読み理解すること、その理解したことに基づいて自分の考えをもち文章化することに課題があります。また、語彙の少なさが、問われていることを正しく理解したり、伝えたいことを適切に表現したりすることを妨げている要因となっています。

また、「知識・技能」も約3ポイント下回りました。主語と述語の関係や、話し言葉と書き言葉の違いについての正答率が全国平均正答率を下回っており、低学年のからの学習の積み重ねが必要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取組

【学校ではこんなことを取り組みます】

低学年から漢字の学習を大切に扱います。漢字を正しく書くだけでなく、漢字が持つ意味や成り立ちを正しく捉えること、習った漢字を使って作文や日記を書くこと、習った漢字から語彙を広げることなどを、全学年において、意識して指導していきます。漢字の練習については宿題の出し方も工夫していきます。

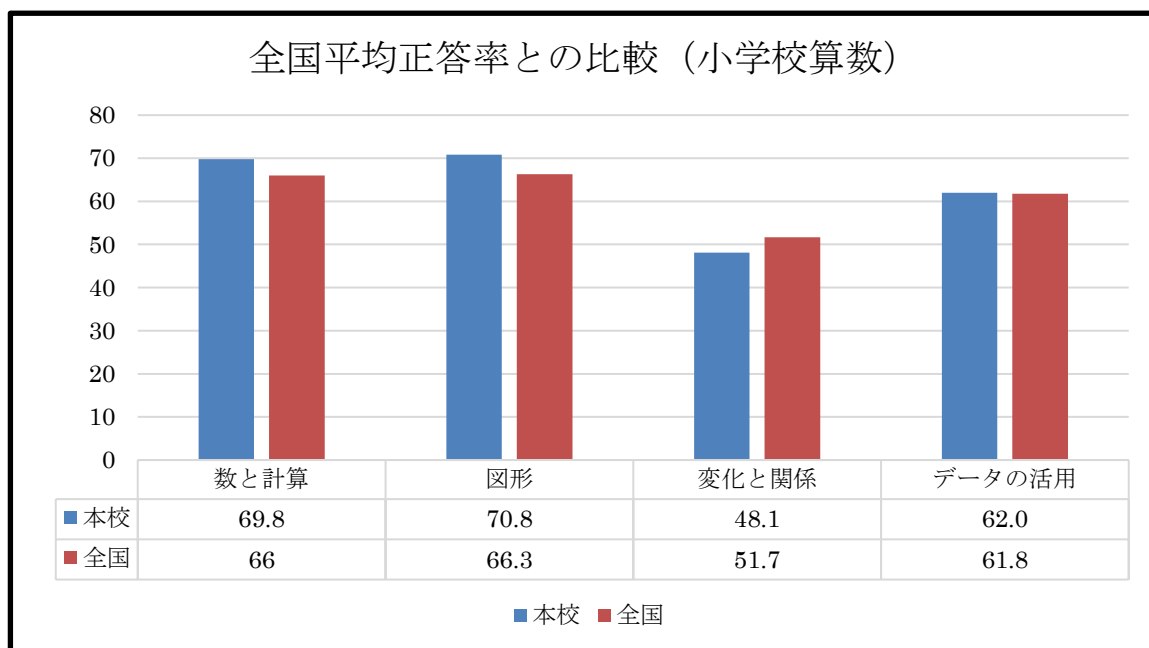
表現する力を高めるために、5W1Hなどの視点を意識し、これまでよりもより長い文章で、様子や気持ちを伝えていくよう、学年に応じた指導をしていきます。

【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

言葉や文章に触れる機会をたくさん作り、文章を読んだり書いたりすることへの抵抗を少なくするために、普段から本や新聞を身近に置いたり、学校での様子などをたくさん話したりしてください。また、どの学年も音読の宿題をほぼ毎日出しています。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、まとまりを意識して読み取れるようになるからです。もちろん、語彙を増やすことにもつながります。大変かとは思いますが、音読を聞き、「すらすら読めたね」「気持ちがこもっていたね」等、励ましの声かけをお願いします。

2 算 数

(1) 領域別全国正答率との比較



「図形」及び「数と計算」領域は全国平均正答率を上回りました。全体的に無解答率が低いです。また、やや2極化の傾向があります。

(2) 成果や課題

「図形」領域で約5ポイント、「数と計算」領域で約4ポイント、全国平均正答率を上回りました。これまで例年課題となっていた、思考力・判断力・表現力を問う記述式の設問4問のうち2問において、全国平均正答率を大きく上回るという健闘ぶりが見られました。無解答率も低く、問題に対して前向きに取り組む様子が伺えました。これまで行ってきた様々な学習指導（「考える」「かく」「話す」の学習サイクル等）の効果が見られました。

答えを求めた後、その数値が適切かどうかの見直しが不十分であることが課題です。「3分間で180m歩くことをもとに、1800mを歩くのにかかる時間を求める」設問で「10分間」と誤答した児童が多数いました。問題を読み直し、「10分間で1800m歩けるだろうか」と吟味することで、誤答に気付くことができます。また、「3分間」や「10分間」、「180m」や「1800m」の量感（大体の感覚）を身につけておくことも大切で、低学年からの積み重ねが必要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取組

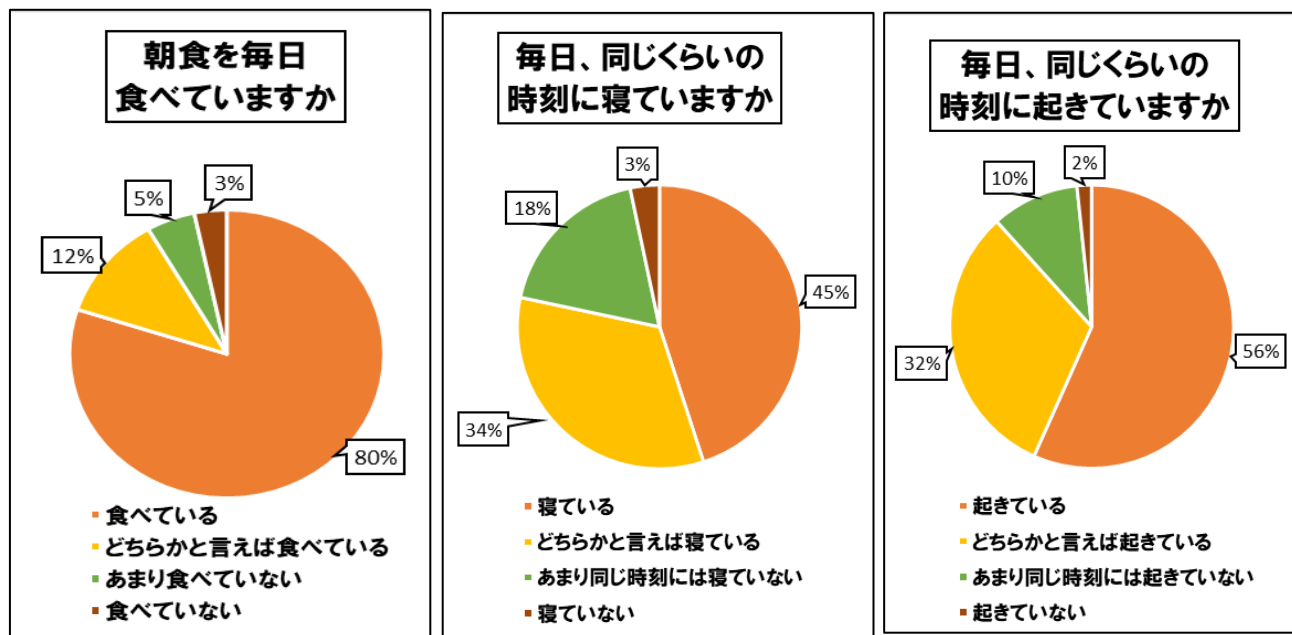
【学校ではこんなことを取り組みます】

- 1 授業では、一人1台端末等、ICT機器を効果的に活用していきます。児童が考えを交流し学びが深まる場を設ける等、ICT機器を使った授業の在り方も工夫していきます。
- 2 計算等で求めた答えが適切かどうか吟味する習慣をつけるよう指導していきます。
- 3 月曜日の朝のチャレンジタイム（10分）では、一人1台端末等を使い、基礎学力の定着を目指して継続して取り組んでいます。

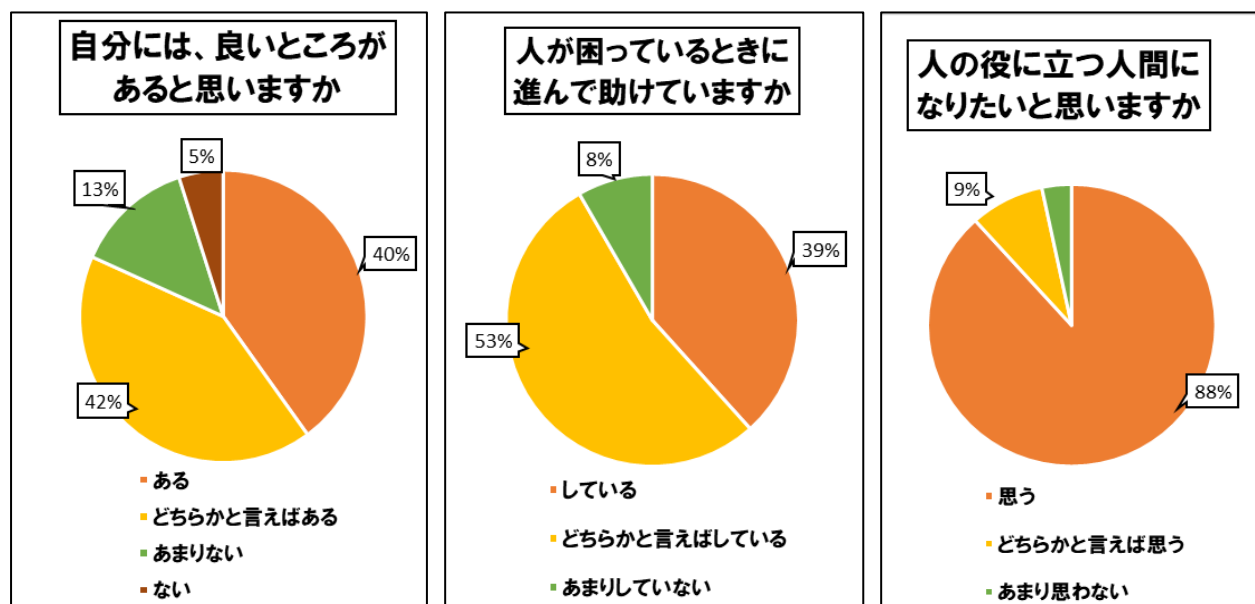
【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

生活場面の中には、算数に関することがたくさんあります。6個のあめを友だち3人で分けると一人分は？一人分のお味噌汁の水の量は150mL。4人分では何mL？お風呂のお湯が1分で約3cmたまったからいっぱいになるまでだいたい何分かな？映画の上映時間が95分。11時から見たら何時何分に終わるかな？生活場面の中にある算数を意識することで、時間の感覚や、重さやかさなどの量の感覚が身についていきます。

3 生活習慣や規範意識、学習習慣に関する調査

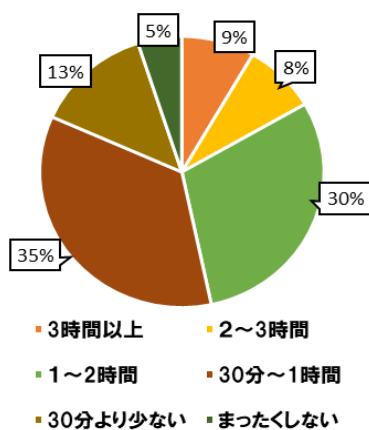


朝食を食べずに登校する児童が少なからずいます。また、毎日同じくらいの時刻に就寝したり、起床したりする、規則正しい生活ができていない児童もいます。特に就寝時刻が不規則の傾向にあります。学校で元気よく生活したり学習したりするために、規則正しい生活ができているか、見直しましょう。合い言葉は「早寝・早起き・朝ごはん」です。

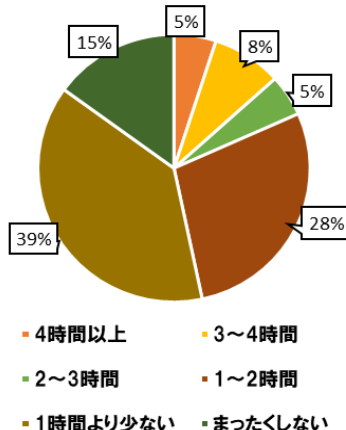


誰かが困っているときに進んで助けようとすることや、人の役に立ちたいという思いをもっていることは、とてもよい傾向です。どの子にも良いところがありますが、肯定的に回答できていない児童が約2割います。どの子もかけがえのない存在です。自分に自信をもって生活できるように、よさを見つけて声かけをしていきましょう。

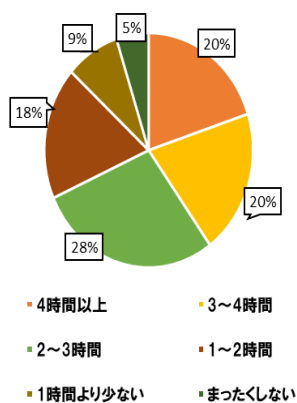
普段、家でどのくらいの時間
学習していますか



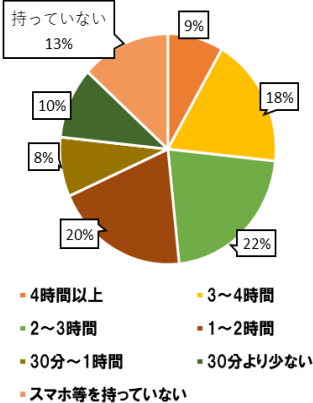
学校が休みの日に、どのくらいの
時間学習していますか



普段、家でどのくらいの時間ゲームをしてい
ますか(SNSや動画視聴の時間を除く)



普段、家でどのくらいの時間SNSや動画視
聴をしていますか(ゲームの時間を除く)



家庭学習時間について
は、普段(月~金)、1時間
未満の児童が半数以上、中
には「まったくしない」と
回答する児童もいました。
休日の学習時間が1時間未
満の児童は8割もいます。
一方で、ゲームをしたり、
SNS や動画視聴をしたりす
る時間が長い児童が多数い
ます。家に帰ってから寝る
までの時間の使い方を見直
す必要があります。

【ご家庭ではこんなことを取り組んでみましょう】

- 学年に応じた家庭学習時間を設定しています。1年生20分、2年生30分、3年生40分、4年生50分、5年生60分、6年生70分です。学年に応じた時間を集中して学習する習慣を身につけることは、学校での学習に対する集中力の向上につながります。学習に集中できれば、理解も深まります。さらには中学校での学力にも大きく影響します。まずは、学年に応じた家庭学習時間を、休日も含めて毎日達成できるよう、声かけをお願いします。4月に配布した「家庭学習の手引き」もご活用ください。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活習慣の定着をお願いします。テレビやゲームなどの使用時間を決めるなど家庭でのルール作りも、学習習慣の定着に欠かせません。
- 親子で読書、親子で調理など、親子での関わりを増やしてみましょう。共通体験を通じてかけられた保護者の言葉は子どもたちの胸に響き、これからの成長を後押ししてくれます。